

おきなわ うらそえ 沖縄県浦添地域における計画段階の検討

1. 浦添地域の課題

①経済活動の阻害

- 浦添市を含めた近隣地域は沖縄県西海岸の中の国際物流拠点産業集積地域に位置づけられ、取扱い貨物量が増加する那覇港や那覇空港、事業所が集中する那覇市・浦添市を中心に経済を牽引する地域。(図1、2、3)
- 沖縄県の訪問客のうち7割が那覇市、3割は中部西海岸を訪れ、沖縄西海岸は県観光産業を支える地域。(図4)
- 交通の集中により、国道58号の当該区間は、交通量が多く、全国の主要都市の中でも、旅行速度が著しく低く、業務、観光などの経済活動の妨げとなっている。(図5)

②通勤通学時の利便性の低下

- 浦添市は、県都である那覇市のベットタウンであり、那覇市に次いで人口が多い。浦添市、宜野湾市等以北の中西部西海岸から那覇市に通勤・通学する人が多い。(図6、7)
- 通勤・通学時に国道58号は交通が集中し、利便性が低下する。(図8)

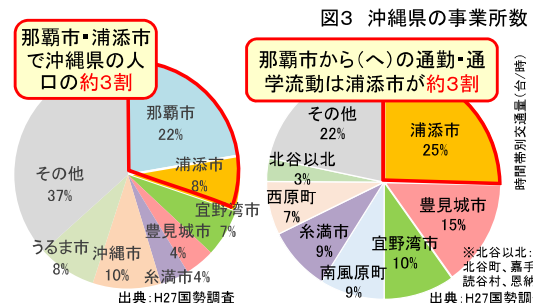
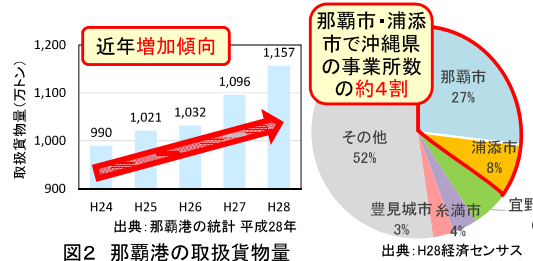
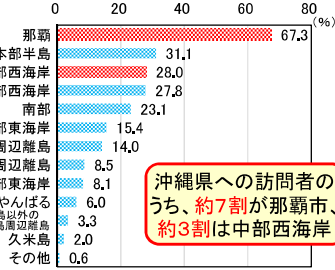
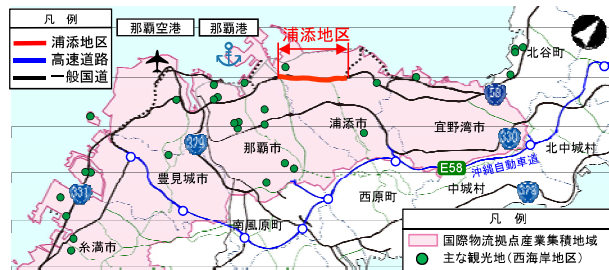


図6 沖縄県の人口割合

図7 那覇市の通勤通学流動

図8 浦添市を通行する車両の時間帯・目的別の交通量

図9 浦添市の交通量・混雑時旅行速度及び主要渋滞箇所

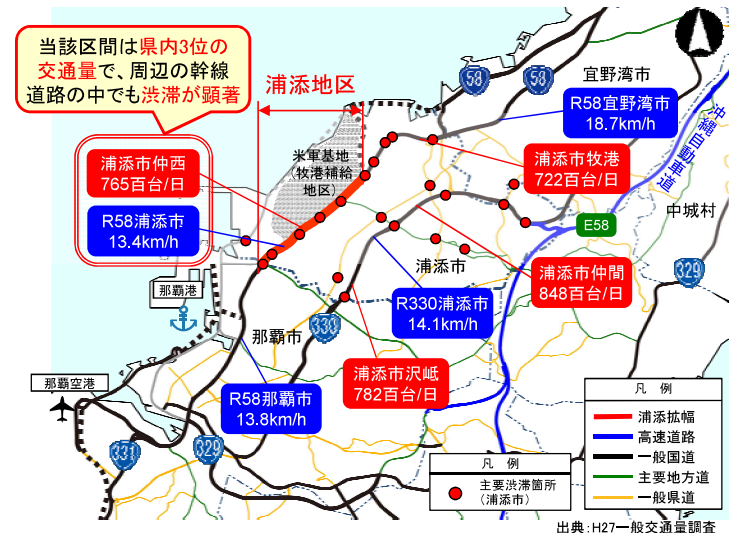
図10 国道58号と国道330号の交通量比較(朝タピーク)

図11 沖縄県内の事故密度の順位(上位5位)

2. 原因分析

①県内3位の交通量が国道58号に集中

- 様々な交通の集中により、県内3位の交通量が浦添地区の国道58号に集中し、主要渋滞箇所が数多く存在。(図9)

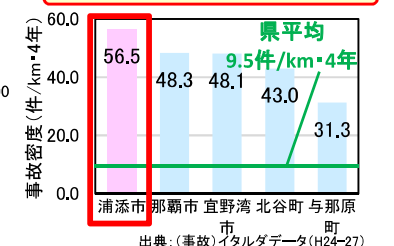
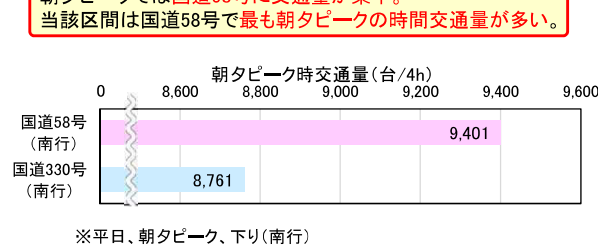


②朝タピーク時における国道58号への交通集中

- 朝タピーク時の国道58号に交通が集中し、渋滞発生により通勤・通学の利便性が低下すると共に、地域の事故の危険性も高い。(図10、11)

朝タピークでは国道58号に交通量が集中。
当該区間は国道58号で最も朝タピークの時間交通量が多い。

浦添市は沖縄県内で1位の事故密度



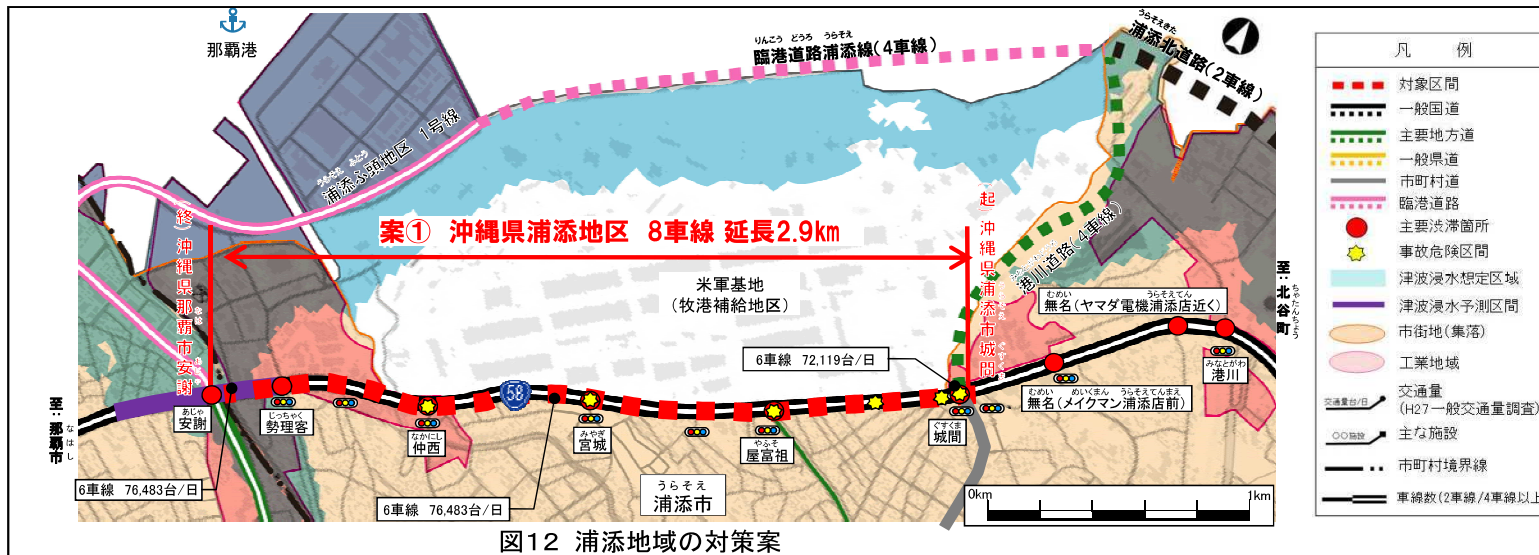
3. 政策目標

- ①那覇市と浦添市のアクセス向上による連携強化により、経済活動を支援
- ②国道58号の交通容量の拡大に伴う交通渋滞の緩和により、朝タピーク時の通勤通学時の利便性の向上

おきなわ うらそえ
沖縄県浦添地域における計画段階の検討

4. 対策案の検討

評価項目			【案①】 8車線整備案			【案②】 対策をしない案	
項目		指標					
政策目標	①那覇市と浦添市のアクセス向上による連携強化により、経済活動を支援	那覇市と浦添市の速達性確保	・国道58号の交通容量が拡大し、旅行速度が向上することで那覇市と浦添市間の速達性確保が期待できる。	○	・旅行速度は変わらず、那覇市と浦添市間の速達性の確保はできない。	×	
	②国道58号の交通容量の拡大に伴う交通渋滞の緩和により、朝タピーク時の通勤通学時の利便性の向上	那覇市への朝タピーク時の円滑性確保	・国道58号の交通容量が拡大し、混雑度が低下することで朝タピーク時における那覇市への円滑性確保が期待できる。	○	・混雑度は変わらず、朝タピーク時における那覇市への円滑性確保はできない。	×	
整備による影響	家屋等への影響		・支障物件 約5件	×	・現況のままであるため、家屋への影響はない	○	
	整備に要する費用		約150億円		—		
総合評価			○		—		



対策方針：案①による対策が妥当

【計画概要】

- ・路線名：一般国道58号
- ・区間：沖縄県浦添市城間～沖縄県那覇市安謝
- ・概略延長：2.9km
- ・設計速度：60km/h
- ・標準車線数：8車線
- ・概ねのルート：図12 案①のとおり

（参考）当該事業の経緯等

都市計画決定等の状況
平成30年3月 都市計画決定

渋滞・事故への取り組み

平成29年3月 沖縄県における事故危険区間の追加・公表
平成29年8月 主要渋滞箇所の特定解除箇所の確認

地域の要望等

平成27年8月 浦添市が国道58号渋滞緩和策を内閣官房長官に要望

米軍基地の返還

平成27年12月 「国道58号を拡幅し、交通渋滞を緩和するため、隣接する牧港補給地区（キャンプ・キンザー）の土地（約3ヘクタール）を平成29年度中の返還を実現する」と日米共同で報道発表

案①標準断面図（単位：m）

